

## 各種がん検診

保健センターでは、各種がん検診を行っています。がんは早い段階では自覚症状がないため、自分ではなかなか気が付かない病気です。早期に発見するため、定期的に検診を受けましょう（乳がん検診と子宮頸がん検診は、2年に1回となります）。

検診希望の登録をしている方には、随時個別に案内を送付します。

※登録していない方で検診を希望する方は、保健センターに申し込みください。



検診名	内容	対象者	自己負担	会場・検診体制
乳がん検診	問診、視診、触診、乳房X線検査（マンモグラフィ）	40歳以上の女性 （昭和51年4月1日以前生まれ）	1,000円	保健センター
胃がん検診	問診、胃部X線検査	40歳以上の方 （昭和51年4月1日以前生まれ）	500円	保健センター・各地区での集団検診
大腸がん検診	問診、便潜血検査（2日法）			
子宮頸がん検診	問診、視診、細胞診、内診	20歳以上の女性 （平成8年4月1日以前生まれ）	500円	指定医療機関での個別検診
前立腺がん検診	問診、血液検査	50歳以上の男性 （昭和41年4月1日以前生まれ）		

## 健康ほっとLine

市立総合病院のスタッフが  
健康に関する情報をお届けします

### 脳卒中センターと 放射線画像検査

当院では1月に脳卒中センターを開設し、脳卒中の患者さんを24時間体制で受け入れていきます。

脳卒中の疑いがある場合、まずCT撮影をします。CTでは新しい出血は白く見えるため、脳出血やくも膜下出血などは出血直後から分かります。また、検査時間が2〜3分で済み、結果がすぐ分かるという利点があります。くも膜下出血であることが判明した場合は、その原因である脳動脈のこぶ（動脈瘤）を見つけるために、再度、造影剤を使用してCT撮影を行い、脳血管を三次元で画像表示して観察します。

脳出血などがないことが判明した場合には、MRIで脳梗塞の検査を行います。MRIは磁力と電波を使って脳の構造を見ることができ、条件を変えられることによりいろいろな画像を得ることができます。例えば、拡散強調画像（MRIの撮影方法の一つ）では、新しい病巣だけを非常に早い時期から特定することができ、発症から1〜3時間後には脳梗塞を確認することができ、CTでは、通常、発症から12〜24時間ほど経過しないと分かりません。

中央放射線部技師長 水野 求

脳梗塞の場合は、続いてMRA検査を行います。MRAは血管だけを映し出す方法で、脳血管や頸部の血管が詰まったり細くなったりしていないか、また動脈のこぶ、奇形の有無を調べます。くも膜下出血で動脈瘤が発見された場合や脳梗塞で主要血管が詰まっていた場合には、血管撮影装置（DSA）を使って血管内手術を行います。DSAとは血管画像のみをリアルタイムにテレビ画像に映し出すことができる装置です。当院の装置はさらに、脳血管内の目的位置に安全にカテーテルを進めることができる「ナビモード」や、三次元画像を撮影できる最新の機能を備えています。

血管内手術は、動脈瘤にはコイルという詰め物をして破裂を防ぎ、血管が詰まっている場合にはカテーテルを使って詰まっている原因の血栓を回収して再開通させます。

脳卒中センター開設に伴い、放射線画像検査の重要度がますます高まる中、脳神経外科医と連携を密にとり24時間365日、種々の装置を効率よく、的確に操作し、より精度の高い検査ができるように技師全員で努力しています。